

民報 ゆうぱり

再生計画期間短縮ならず、残り16年

職員給与改定後も「全国最低」は変わらず

集会施設の電気・水道ようやく予算化 子ども文化振興基金積立金に約8千万円

2月26日、臨時

議会において、平成26年度財政再生計画の第1次変更（1億8千2百万円の増額）が議決されました。今回の計画変更により、市民から要望が出されていた集会施設の維持費として、電気・水道料金の基本料金相当部分が、ようやく、市の予算

として支出されることになりました。また、美術館倒壊による補償金として収入のあった、約8千万円を「子ども文化振興基金」として積み立て、今年度は美術品の管理や旧美術館解体の費用にあてるのが計画されています。

さらに、職員採用の2名増と、給与改善では年収で5%弱の改善をしましたが、の状態が続きます。

と

その中でも、もとの年の2割以上のカットが続く状況であり、同程度の人口の行政区の中で全国最低水準」という状況が、今後も長期間にわたって続きます。

集会施設についても、指定管理者として請け負う町内会の管理委託に対する人件費の予算化はされず、町内会や文化団体の補助金もゼロ

の状況が続きます。

- 《新たな支出の例》
- ◆「ひまわり」耐震改修促進事業～約1160万
 - ◆橋梁点検・補修～約6570万円
 - ◆小学校副読本作成～約146万円
 - ◆ユーパロ幼稚園耐震診断～約290万円
 - ◆農業基盤整備促進事業～約864万円
 - ◆人件費給与改善～3029万円
- (…集会施設の電気・水道の基本料金として…)
- ◆農業研修センター補助～約11万円
 - ◆千代田コミュニティセンター補助～約8万円
 - ◆南部コミュニティセンター補助～約12万円
 - ◆市営住宅集会所管理運営費補助～約50万円
 - ◆道営住宅集会所管理運営費補助～約12万円
- 《新たな歳入の例》
- ◆発電所所在市町村新鉱事業補助金～約500万円
 - ◆電源立地地域対策交付金～約568万円
 - ◆夕張市子ども文化振興基金繰入金～約4442万円
- ※財政再生計画の、現時点の返済額残金は約302億円で、財政再生計画は2030年3月に修了予定です。

=野呂栄太郎没後80周年= 碑前祭・記念講演会開催



とあいさつしました。来賓では長沼町教育長、同業委員、栗山会長、町議、長代理、党員、国会議員、談室

ふれで、記念講演会が開催されました。ふれ会場は長沼町教育委員会が後援してくださり、120余名が参加しました。講演に先立って宮田汎（ひろし）国倍同盟道会長が「野呂栄太郎の不屈の生涯」をスライド映像でわかりやすく解説し紹介しました。前北海高校校長北明邦雄氏は「北中時代の野呂栄太郎」と題して1時間講演しました。

2月23日午後1時から野呂栄太郎没後80周年碑前祭が長沼町の記念碑小公園で開催されました。「治安維持法」犠牲者に黙祷を捧げたあと、主催者を代表して上田久司日本共産党南空知地区委員長が「野呂栄太郎氏は1934年2月19日、33歳の若い命を奪われた。野呂氏の思いを受け継ぎ、日本を戦争する国へと狙う安倍政権の暴走を食い止めるため奮闘する」とあいさつしました。

長沼町長、岩見沢市長、夕張市長、美唄市長、南幌町長からメッセージが寄せられ披露されました。最後に昨年3月、南幌、栗山、由仁、長沼、月形の各町議会で犠牲者に対して謝罪と賠償を求める意見書が採択されたことが藪田亨長沼町議員から報告されました。

その後、長沼町の総合福祉センターがふれで、記念講演会が開催されました。ふれ会場は長沼町教育委員会が後援してくださり、120余名が参加しました。講演に先立って宮田汎（ひろし）国倍同盟道会長が「野呂栄太郎の不屈の生涯」をスライド映像でわかりやすく解説し紹介しました。前北海高校校長北明邦雄氏は「北中時代の野呂栄太郎」と題して1時間講演しました。北海中学は北海英語学校として創立。初代校長、2代校長がかかげる自由主義的で「質実剛健・百折不撓」の校風を紹介。「野呂は寮の野球部に所属し工夫したスクワラードだった。5年の卒業時に北中の『協学会誌（創立15周年記念号）』の編集主任として秀才を發揮、見事な記念号を仕上げた。このような学生生活がその後の野呂が生きる土壌ともなっていたのではないかと結びました。

「健康には笑いが一番です」 南部地区で開催！ 映画祭特別企画夕張落語会！！

夕張映画祭の特別企画として落語会が28日南部コミュニティセンターで開催されました。



会場には冷たい風の吹く中を地元南部地域住民のほか市内各地域からも集まりました。映画祭メイン会場から離れた南部地区住民にとって落語の「実演」を観賞できると、高齢の方も含め100名近い参加となる盛況ぶりでした。

立川談志さんに師事し、その後鈴々舎馬風師匠の門下生となつて活躍し、平成8年には文化庁芸術祭演芸部門優秀賞を受賞した鈴々舎馬桜さんが高座をつとめました。

高齢の参加者が多いことを話題にし、健康維持は笑うことが大切と自らの体験談をまじえながら参

加者を話に引き込んでいきました。落語特有の御隠居さんとその相方の軽妙なやり取りを、約30分ほど熱演し会場を笑いの渦に引き込んでいきました。

その後、新作落語の解説に続き、若者の文化に遅れじと新しい時代を必死に生き抜くお年寄りを登場させた現代落語も披露し、大きな拍手に包まれました。会場には鈴木市長も現れ、1時間余りの熱演を参加者と一緒に楽しんでいました。

手をつなぐ支援者の会 「ひろば・シューパーロ」 ゆうばり国際映画祭で出店



3月1日アデイイレ会館ホワイエ会場に映画祭参加者のための食品販売店が開設されました。いくつかの出店が並ぶ中、手をつなぐ支援者の会「ひろば・シューパーロ」の活動を取材しました。

この会は障害者の自立を目的に、はまなす会館で就業している方々をいっそう励まそうとする支援者の

当日のメインメニューは「ゆうばりうどん絆」という献立で、早朝から準備し、会場では電気暖めてカップに盛りつける方法で、ほぼ100食に近い販売がありました。

また、沖縄のおやつ・サターアングーは完売しました。食品外では、会員手づくり陶器のフクロウの鈴は、お客さんの目を引き、リンリンと音色を確かめて買い求めていました。その他、映画祭記念ミニ色紙や石けんデコパージュなどがありました。

行きたいの店で散髪したとき、「白髪が見えてきましたね」と言われました。今は気力も体力も充実していますが、誰にも訪れる「老い」は、いずれ私も経験します。

安倍内閣は「医療・介護総合推進法案」を国会に提出しました。「急性期」病床を削減し、患者の「追い出し」をすすめるほか、「要支援」者の訪問・通所介護を介護保険サービスから外し市町村の事業へ移行。特別養護老人ホームの入所者を原則的に「要介護3」以上に限定するなど驚くべき内容です。

これらの影響を調査するため、高橋ちづ子衆院議員が来道、真下紀子道議らと同行しました。訪れたのは浦河町と留萌市、札幌市。浦河町では町長が応対され、『要支援』の人を地域で受け入れることは、実態として困難「国として責任を持って（介護保険の）制度設計をしてほしい」と要望されました。

留萌市では訪問介護などを行う事業所を訪問。片道一時間かけて訪問するお宅もあります。「吹雪でも女性一人で運転して行かなければなりません。雪で埋まり、男性職員が救出したこともあります」と苦労が話されました。札幌市では介護の「市場化」が急速にすすんでいます。サービス付き高齢者向け住宅（サ高住）の戸数は道内の半数以上を占めていますが、高額で国民年金だけではとても支払えません。

住んでいる地域や収入で高齢者が見捨てられる社会でいいのか。実態に即した医療・介護制度の充実こそ必要です。



日本共産党
道国政相談室長

森 つねと

「安心して人生を送ることができる社会へ」